

Title	我が国証券業の産業組織に関する一考察
Sub Title	
Author	小林泰則(Kobayashi, Yasunori) 藤枝省人
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1981
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1981年度経営学 第139号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001981-0139

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

小 林 泰 則

主査 藤 枝 省 人 教授

(山種証券株式会社)

副査 加 藤 寛 教授

所属ゼミナール 藤 枝 省 人 研

柴 田 典 男 助教授

我が国証券業の産業組織に関する一考察

我が国証券業は、直接金融の担い手として、順調な発展を遂げつつある。一方、内外で急速に進展する「金融革命」の渦中であって、その将来を左右する重要な課題に直面している。

(1) 新銀行法設立、証券取引法改正に伴う、銀行の証券業務への参入 (2) 企業間の規模格差拡大化傾向 (3) 個人投資者の株式市場離れに代表される個人マーケットの縮小化傾向等である。

この論文は、証券業の産業組織の解明を通して業界特性を知り、それを踏まえて、業界が直面する諸問題の解決への道を探ろうとするものである。

市場構造、市場行動、市場成果という産業組織論の枠組に添って論じ、有効競争性を検討した。これらを経て、(a) 産業内競争における有効競争性は維持されている。(完全ではないが) (b) 大手4社による引受幹事部門の独占的支配とアンダーライター業務の寡占化 (c) 個人マーケットでの過当競争性及び、地域別競争特性の存在等の業界特性を抽出した。そして、当面の課題への対応策として、

(i) 銀行の新規参入に関しては、現在業界内に維持されている競争上のバランスを崩し、業界運営そのものを損うおそれがあるため、法律(上記2法を中心に)の運用面で競争阻止・抑制策をとる (ii) アンダーライター業務の寡占化に関しては、引受幹事参加を数の面で規制し、非寡占部分のアンダーライター機能強化を図り、当分野での競争性を高める (iii) 個人マーケット縮小化傾向に関しては、店舗・人員行政の強化で全国証券マーケットの競争平準化(過当競争防止)、サービスの向上を図る等を提言した。